

ヒエの害虫イネヨトウの防除時期

【1 成果概要】

イネヨトウの越冬世代羽化盛期はフェロモントラップで把握できます。

イネヨトウの防除にBT剤を使用する場合、越冬世代の羽化揃期（羽化盛期から1半旬後）とその7日後の2回散布で効果が認められます。

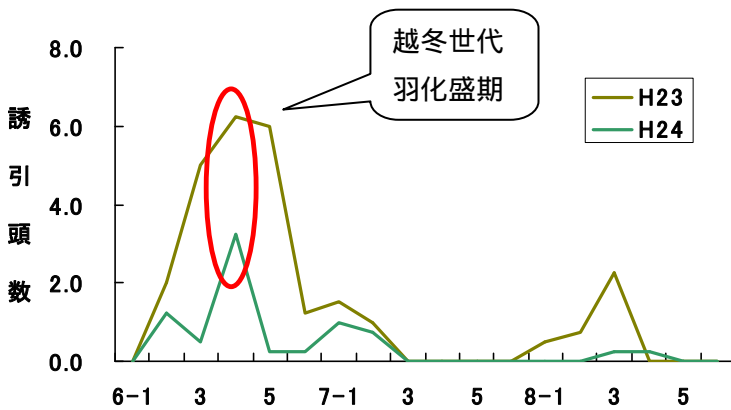


図1 フェロモントラップによる誘引消長(平成23、24年)
 県北農業研究所内圃場4カ所にトラップを設置。誘引頭数は1トラップ当たりの平均値

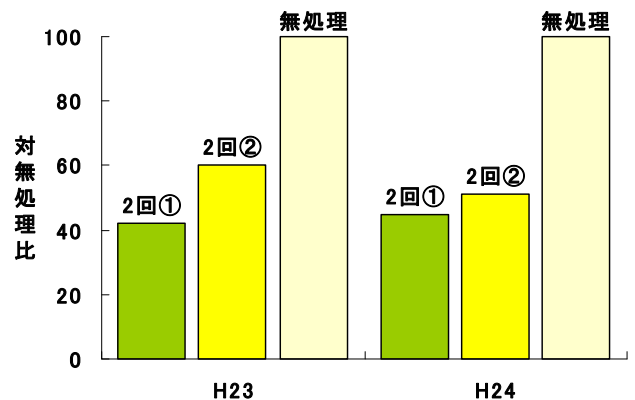


図2 イネヨトウに対するBT剤の防除効果
 2回① : 羽化揃期+7日後に散布
 2回② : 羽化揃期の7日後+さらに7日後に散布

【2 効果】

フェロモントラップを用いて越冬世代羽化盛期を把握することにより、BT剤によるイネヨトウの防除時期を判断できます。

【3 留意事項】

イネヨトウ用のフェロモンルアーは(一社)日本植物防疫協会より販売されています。

ヒエはイネヨトウの他、アワノメイガの被害が大きく、圃場によってはアワノメイガが多発し、9月以降に被害が急増します。圃場ごとに加害種を把握する必要があります。

10aあたりの薬剤費は、現地慣行の1000/10aで散布する場合、BT剤(トアロー水和剤CT)2回散布で約2,000円になります。



イネヨトウの被害

担当研究室

県北農業研究所 作物研究室 〒028-6222 九戸郡軽米町山内23-9-1 TEL. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011